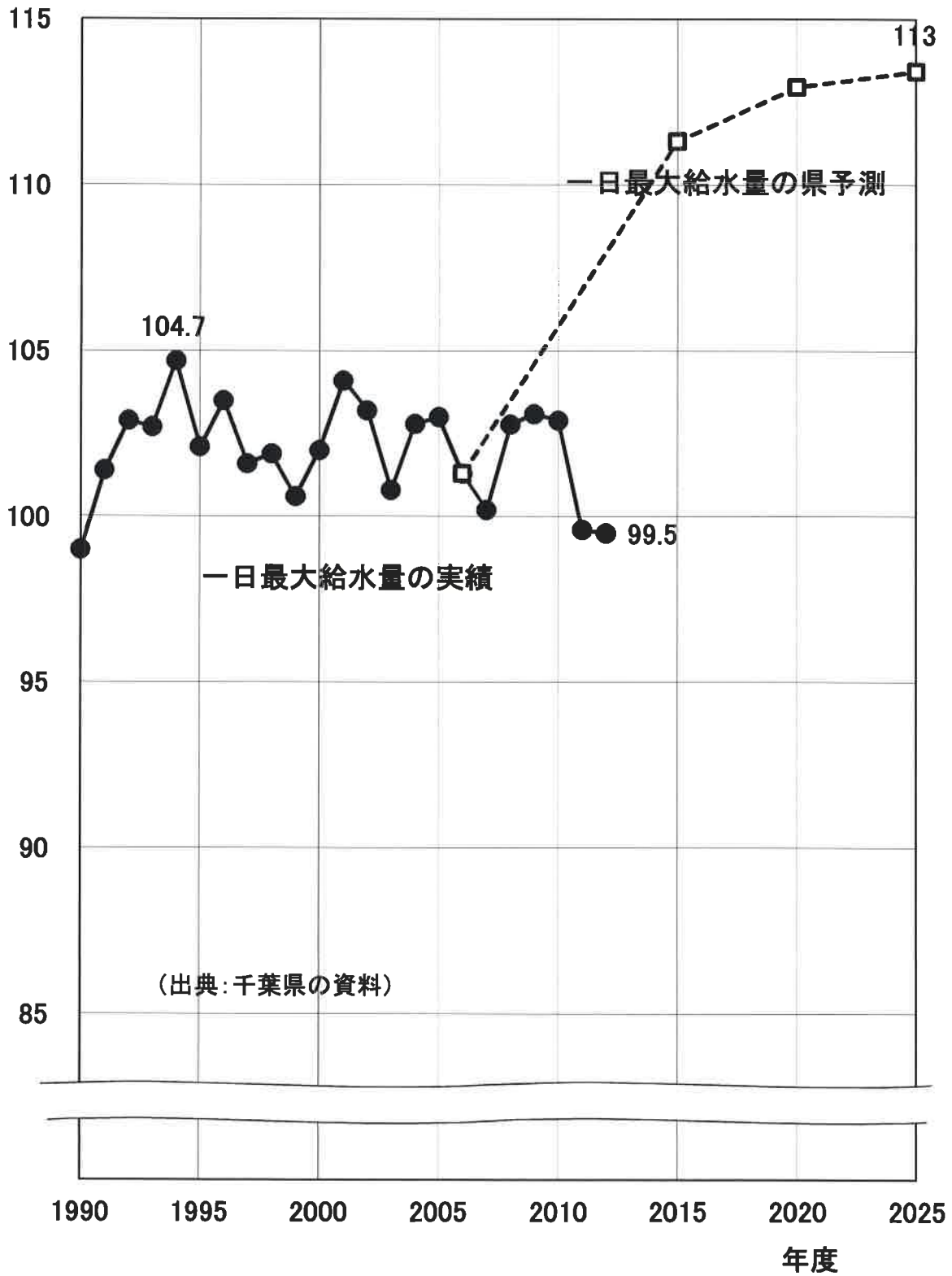


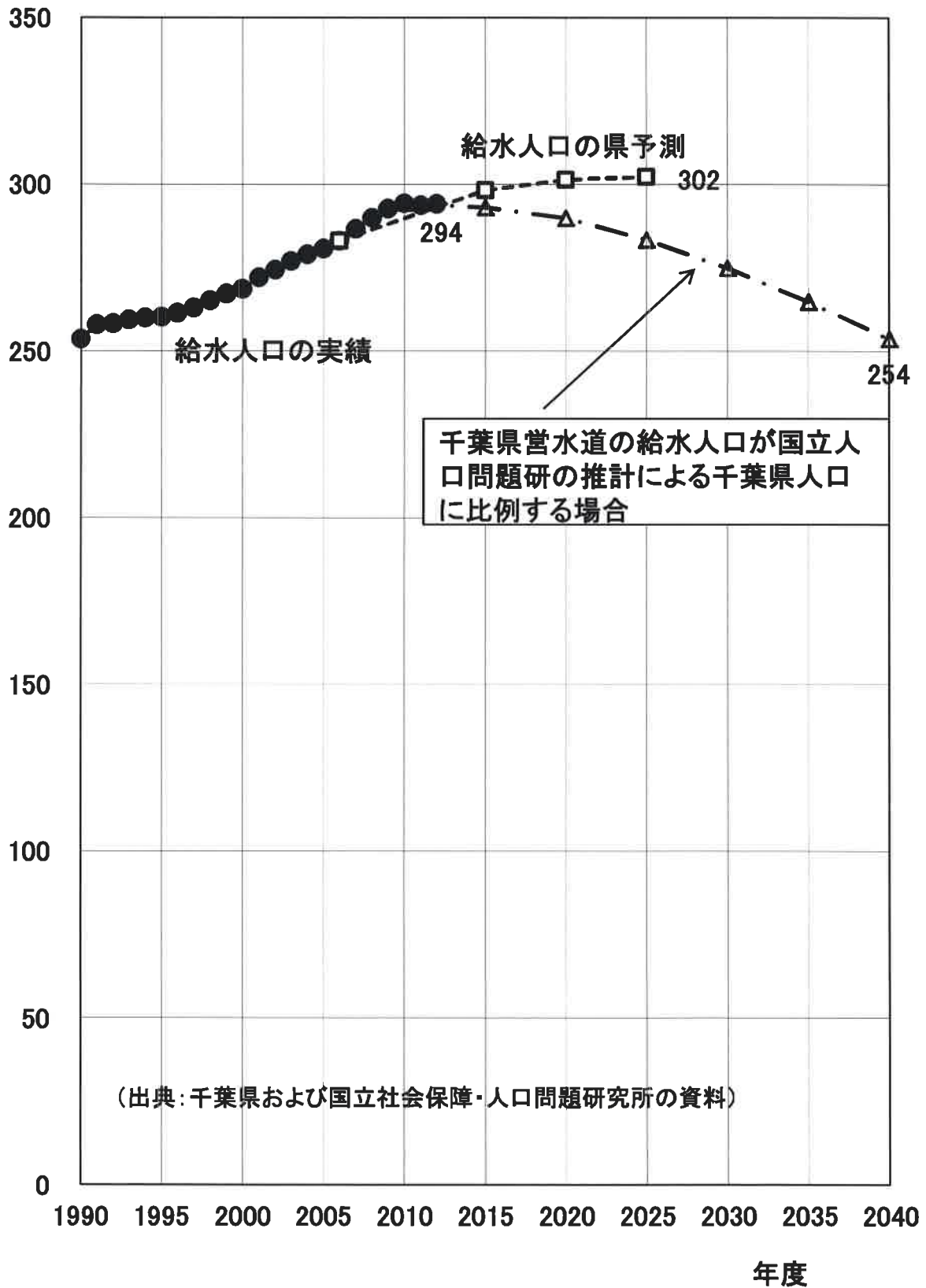
千葉県営水道の 一日最大給水量の実績と県の予測

万m³/日

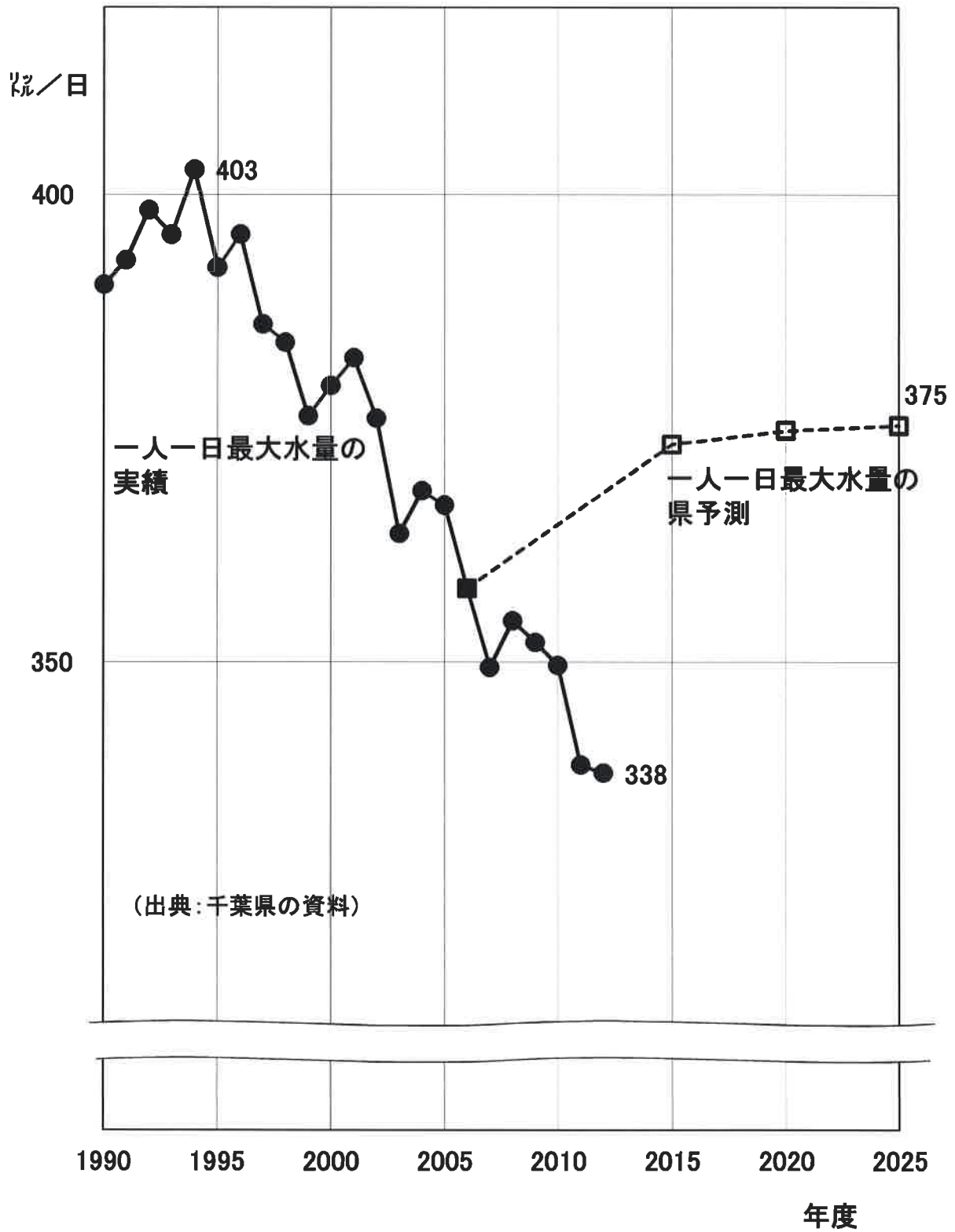


千葉県営水道の 給水人口の実績と予測

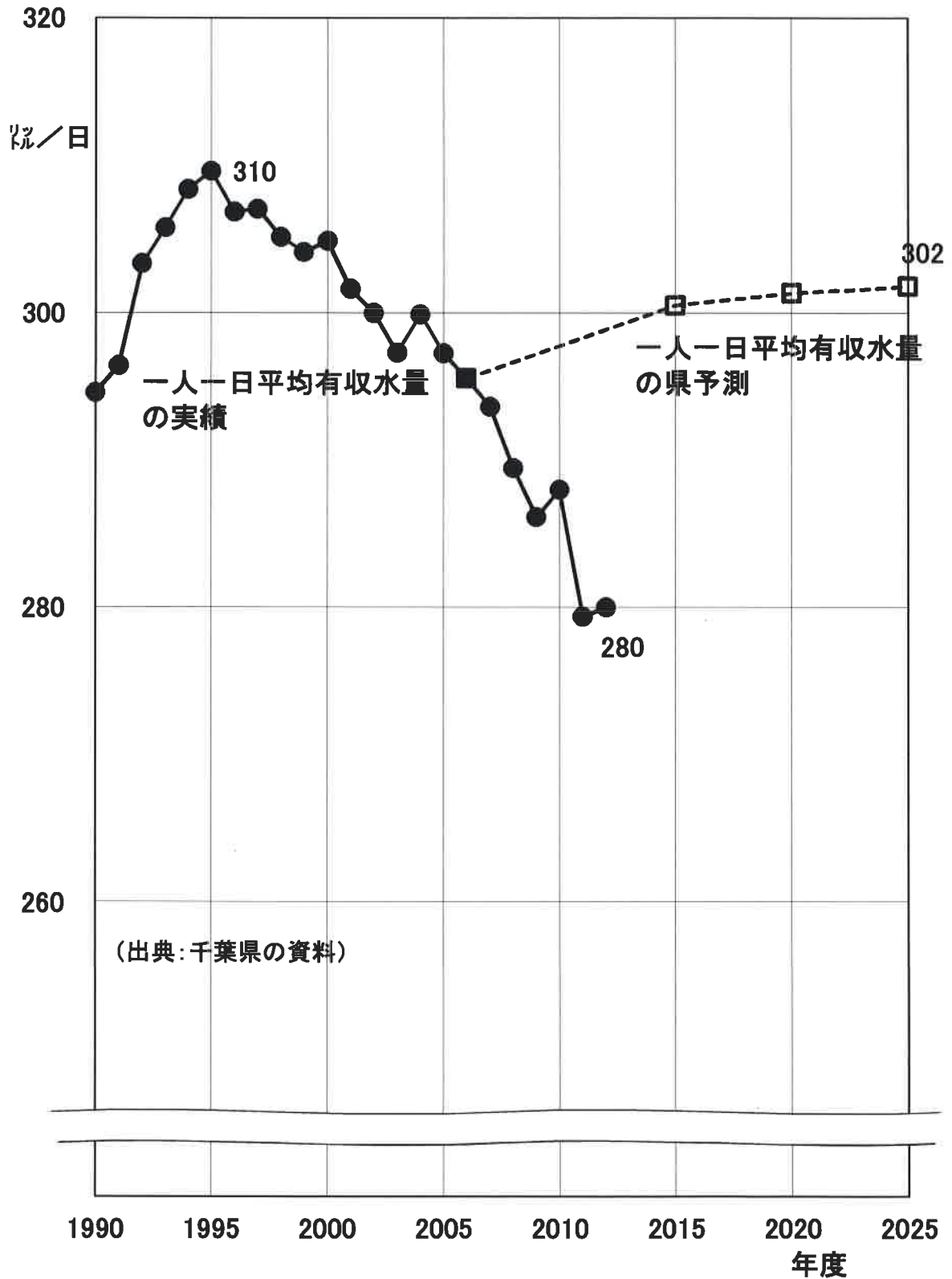
万人



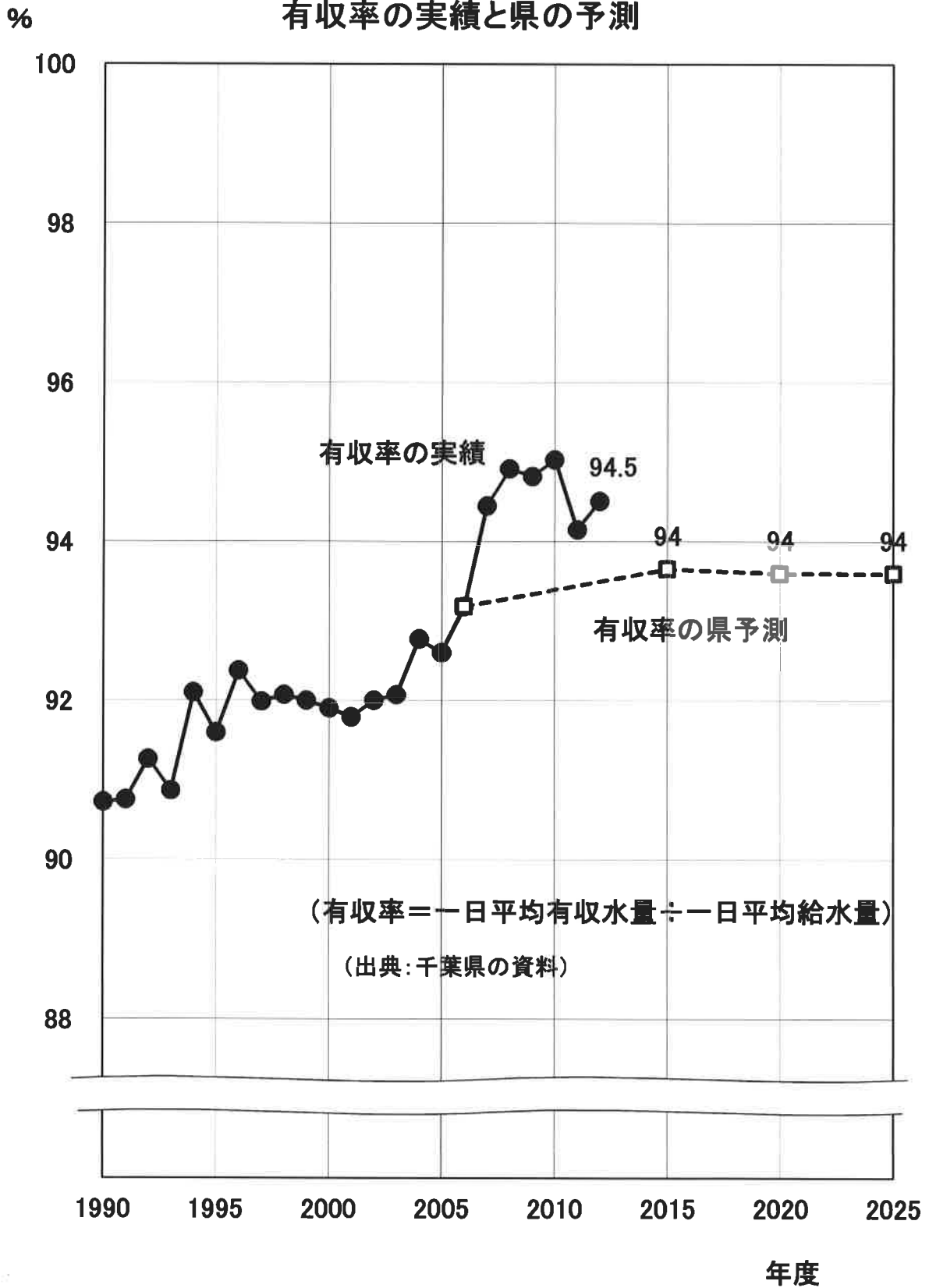
千葉県営水道の 一人一日最大給水量の実績と県の予測



千葉県営水道の 一人一日平均有収水量の実績と県の予測

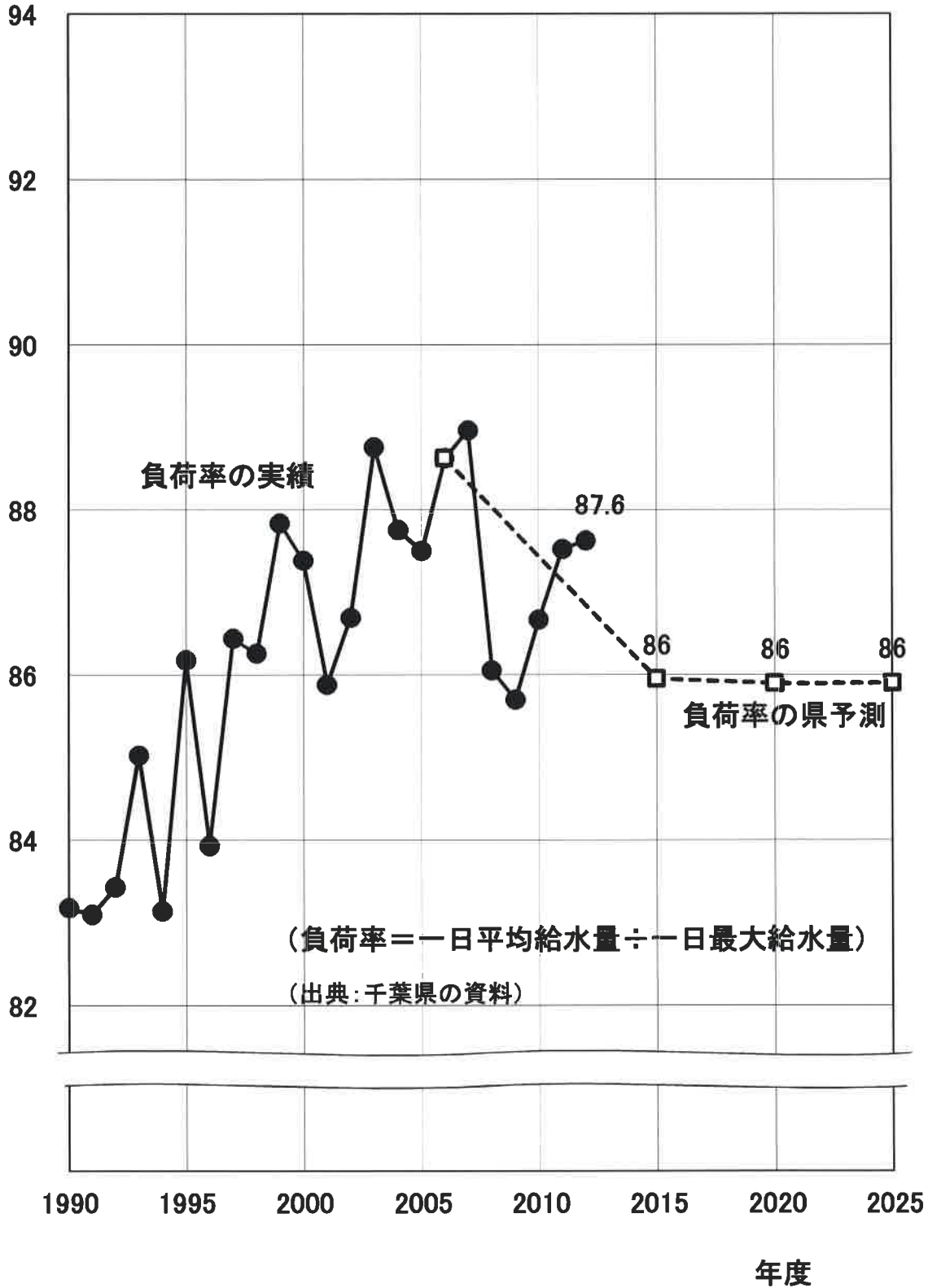


千葉県営水道の 有収率の実績と県の予測



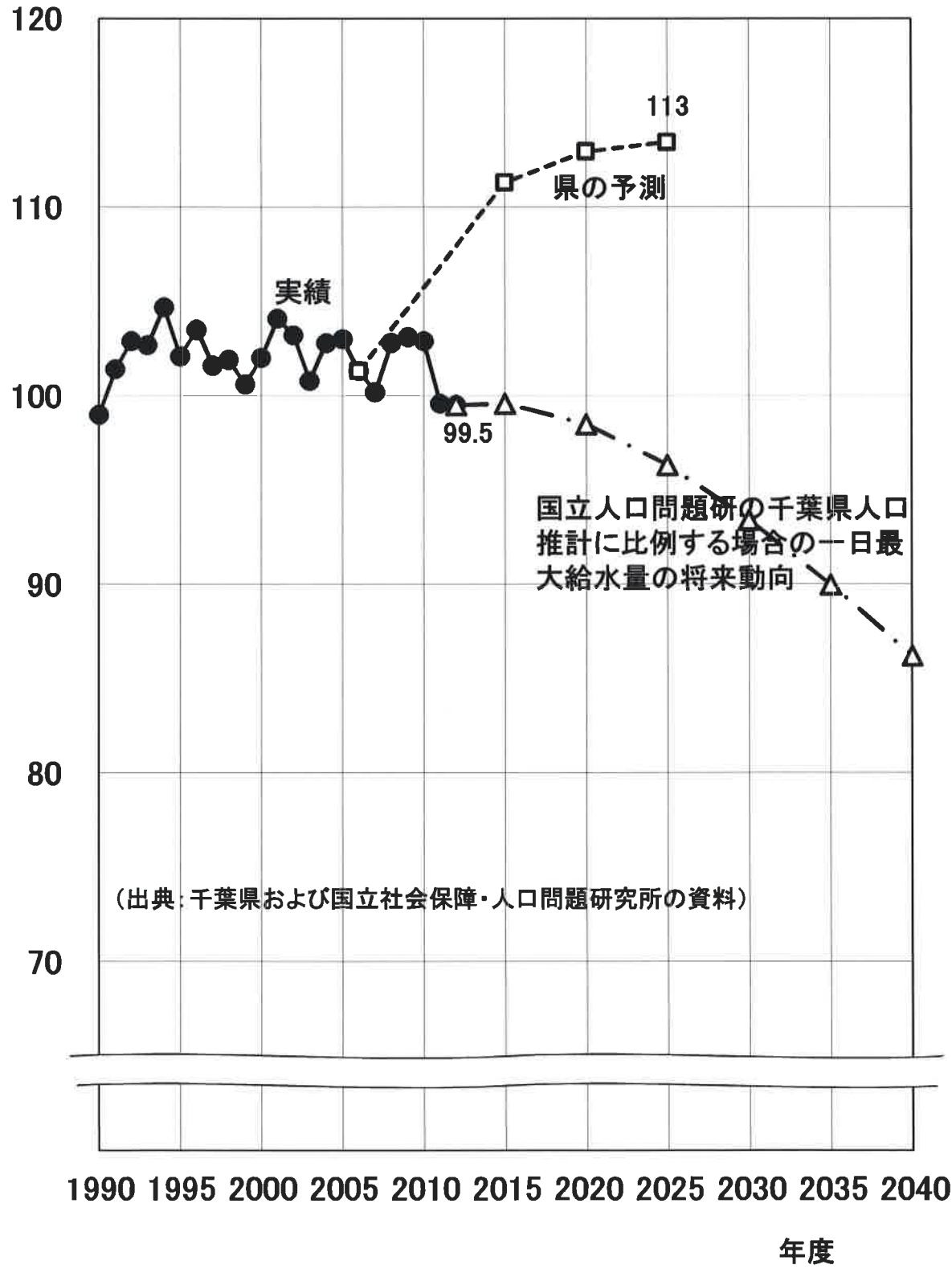
千葉県営水道の 負荷率の実績と県の予測

%

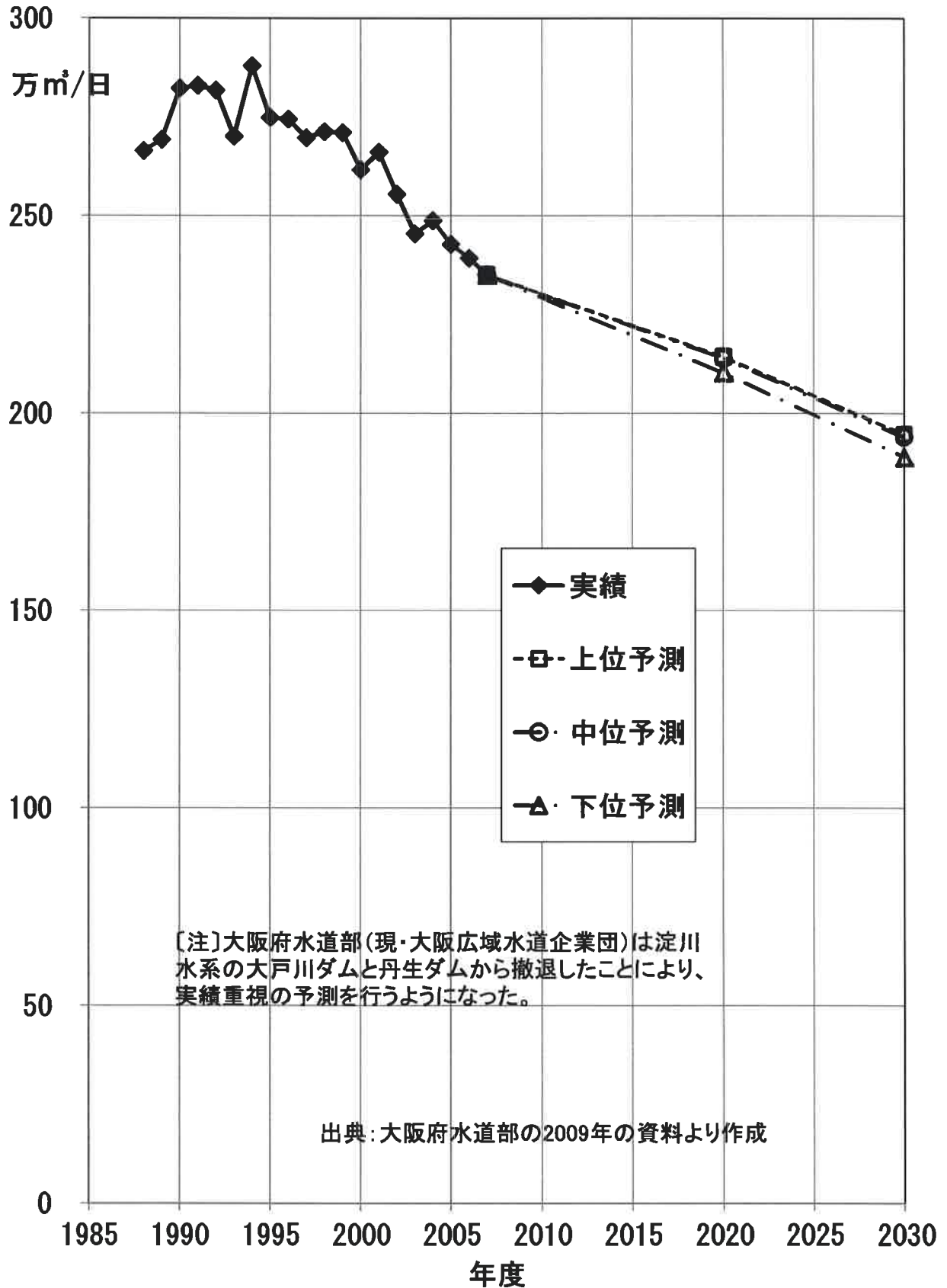


千葉県営水道の 一日最大給水量の実績と将来

万m³/日



大阪府水道の一日最大配水量の実績と予測
(大阪市を除く府全域)



千葉県営水道の保有水源

	控訴人の評価 (給水量ベース m ³ /日)		被控訴人の評価 (給水量ベース m ³ /日)				2/20濁水年 の評価率 (被控訴人によ る)
	現在の保有水源		現在の保有水源		ハッ場ダム完成後の保有水源		
	保有水源 (従来の評価)	2/20濁水年 の水源量	保有水源 (従来の評価)	2/20濁水年 の水源量	保有水源 (従来の評価)	2/20濁水年 の水源量	
利 根 川 水 系	利根川河口堰	294,659	294,659	286,500	286,500	286,500	100.0%
	江戸川自流	89,752	70,186	87,000	68,034	87,000	78.2%
	川治ダム	166,719	131,208	161,100	126,786	161,100	78.7%
	奈良俣ダム	40,981	32,211	39,400	30,968	39,400	78.6%
	東金・長柄ダム(房総導水路)	42,336	33,403	41,000	32,349	41,000	78.9%
	湯西川ダム	127,855	100,238	125,200	98,157	125,200	78.4%
	江戸川・中川緊急導水	123,621	97,166	(120,000)	--	(120,000)	78.6%
	坂川農業用水合理化	39,796	31,280	(39,000)	--	(39,000)	78.6%
	高滝ダム	93,139	93,139	90,000	90,000	90,000	100.0%
	北千葉広域企業団からの受水	224,100	176,143	224,100	176,143	224,100	78.6%
君津広域企業団からの受水	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	100.0%	
地下水(県営水道保有井戸)	26,000	26,000	--	--	--	100.0%	
計画中	---	---	--	--	120,400	94,634	78.6%
計	1,328,958	1,145,633	1,114,300	968,937	1,234,700	1,063,571	---

〔注1〕 控訴人の評価による給水量ベースの保有水源は利用率は実績値98%(2008~12年度の平均)を用いたものである。(被控訴人は95%)

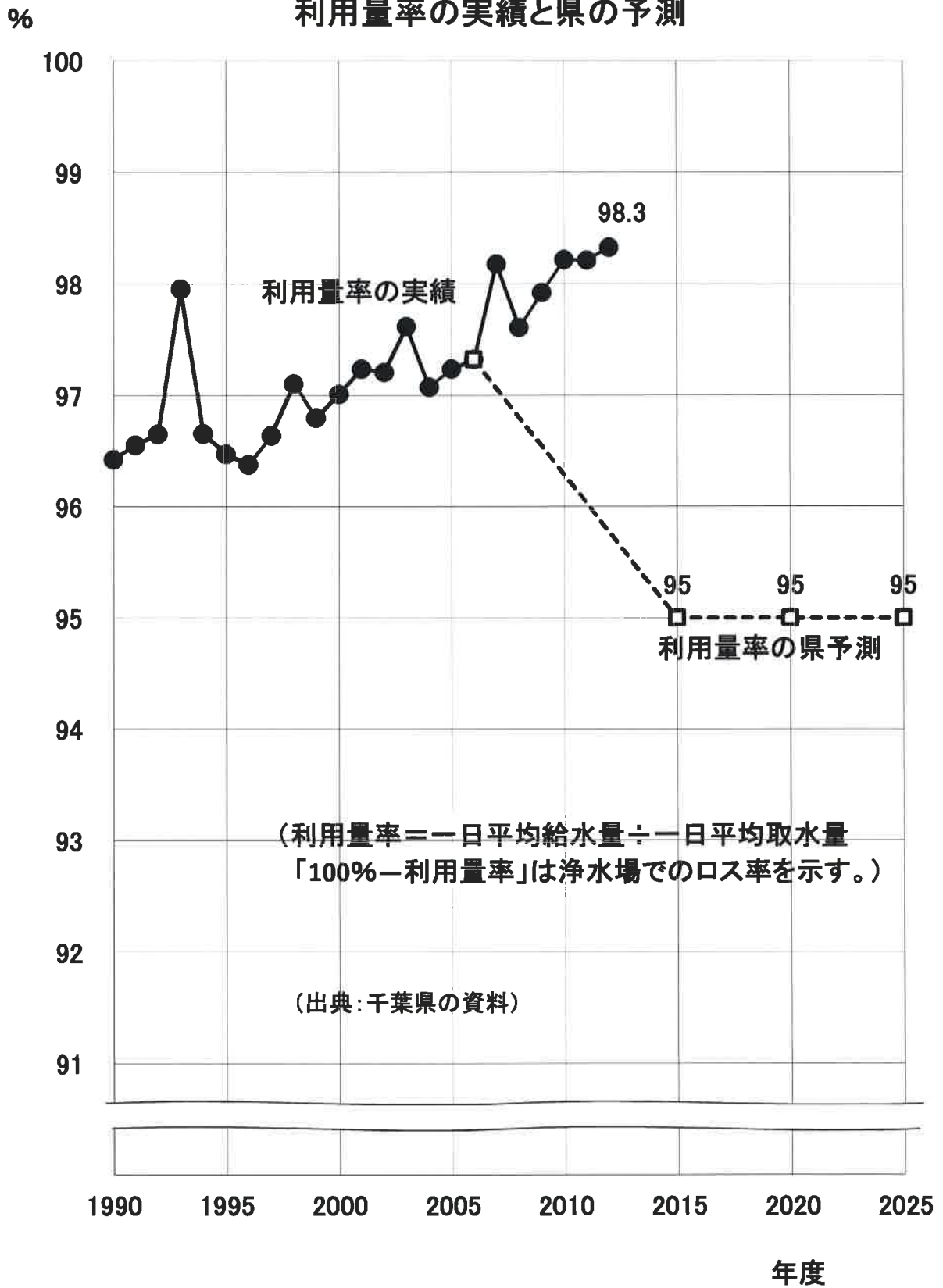
〔注2〕 地下水の水源量は公称5.1万m³/日であるが、予備水源であることを考慮して半分(2.6万m³/日)とした(控訴人の評価)。被控訴人は地下水をカウントせず。

〔注3〕 国交省が示す2/20濁水年の減少率は科学的根拠が乏しいものであるが、控訴人の評価でもそれを用いて2/20の水源量を求めた。

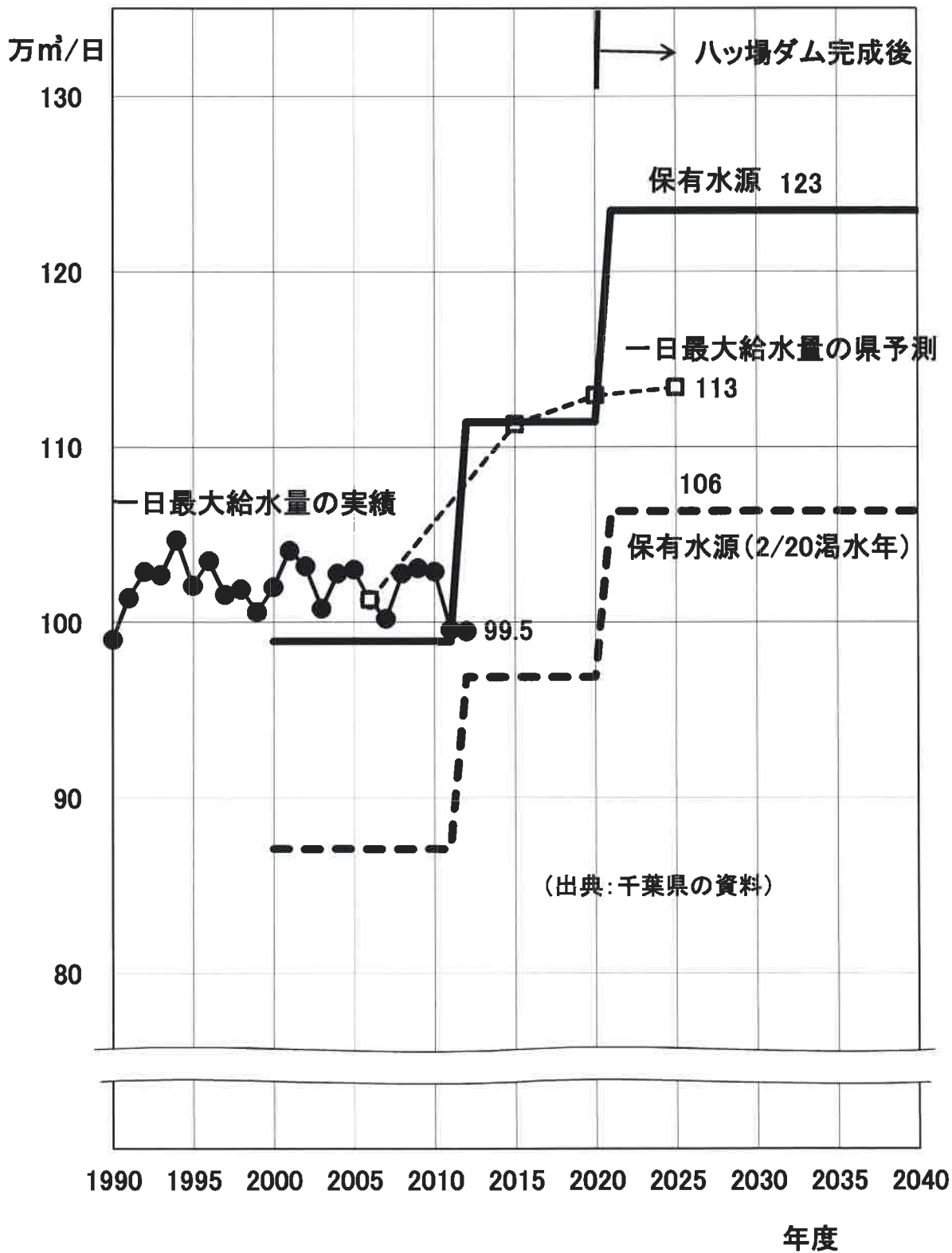
控訴人と被控訴人による千葉県営水道の現保有水源の評価量の差

	控訴人の評価 (m ³ /日)	被控訴人の評価 (m ³ /日)	評価量の差 (m ³ /日)
千葉県営水道の保有水源 (従来の評価)	1,328,958	1,114,300	214,658
	控訴人	被控訴人	評価量の差 (m ³ /日)
江戸川・中川緊急導水	現実の利用実態を反映	安定水源として評価せず	120,000
坂川農業用水合理化	現実の利用実態を反映	安定水源として評価せず	39,000
地下水(県営水道保有井戸)	現実の井戸所有実態を反映	安定水源として評価せず	26,000
利用量率による評価差	実績値98%を使用	95%を使用	29,658
計	---	---	214,658

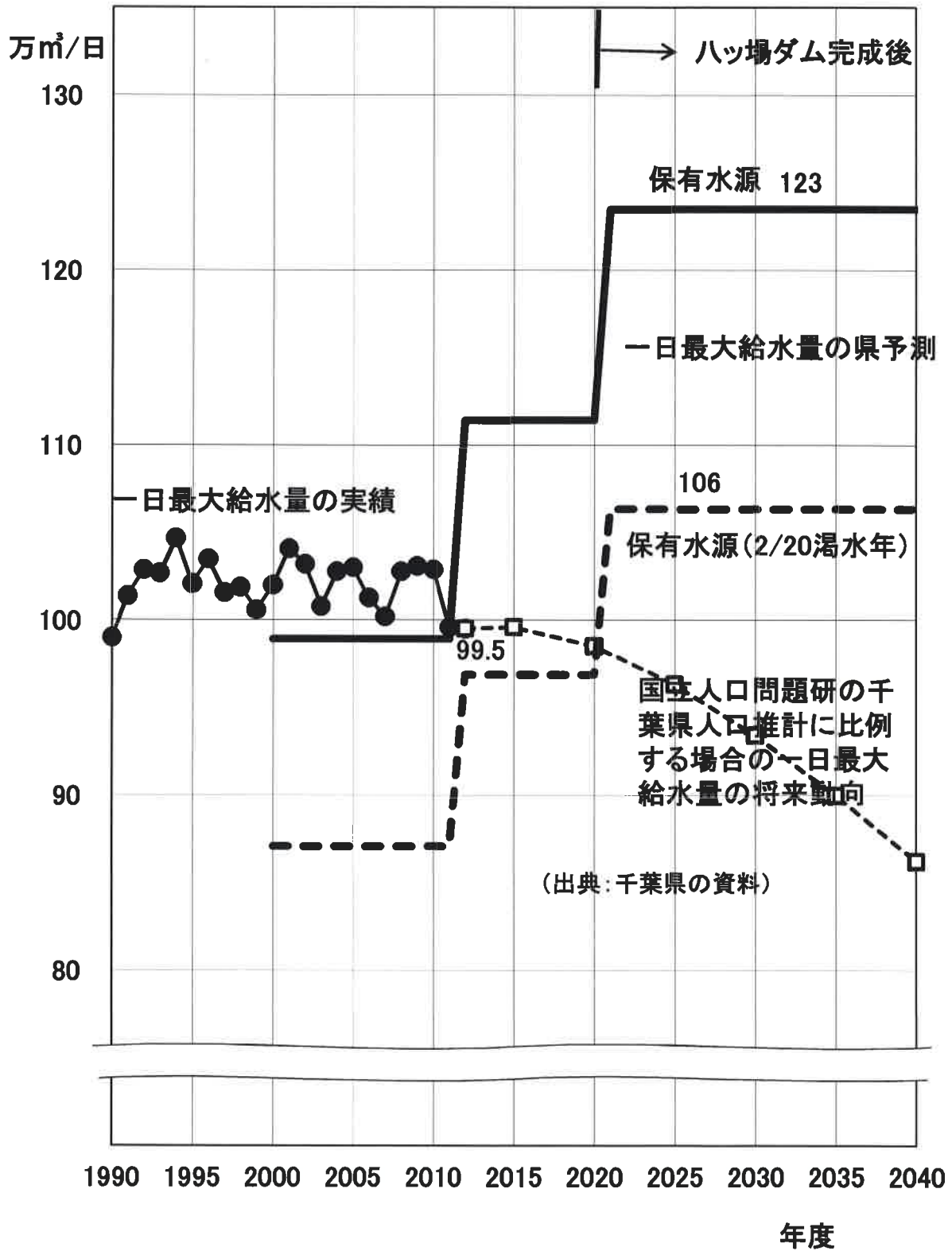
千葉県営水道の
利用量率の実績と県の予測



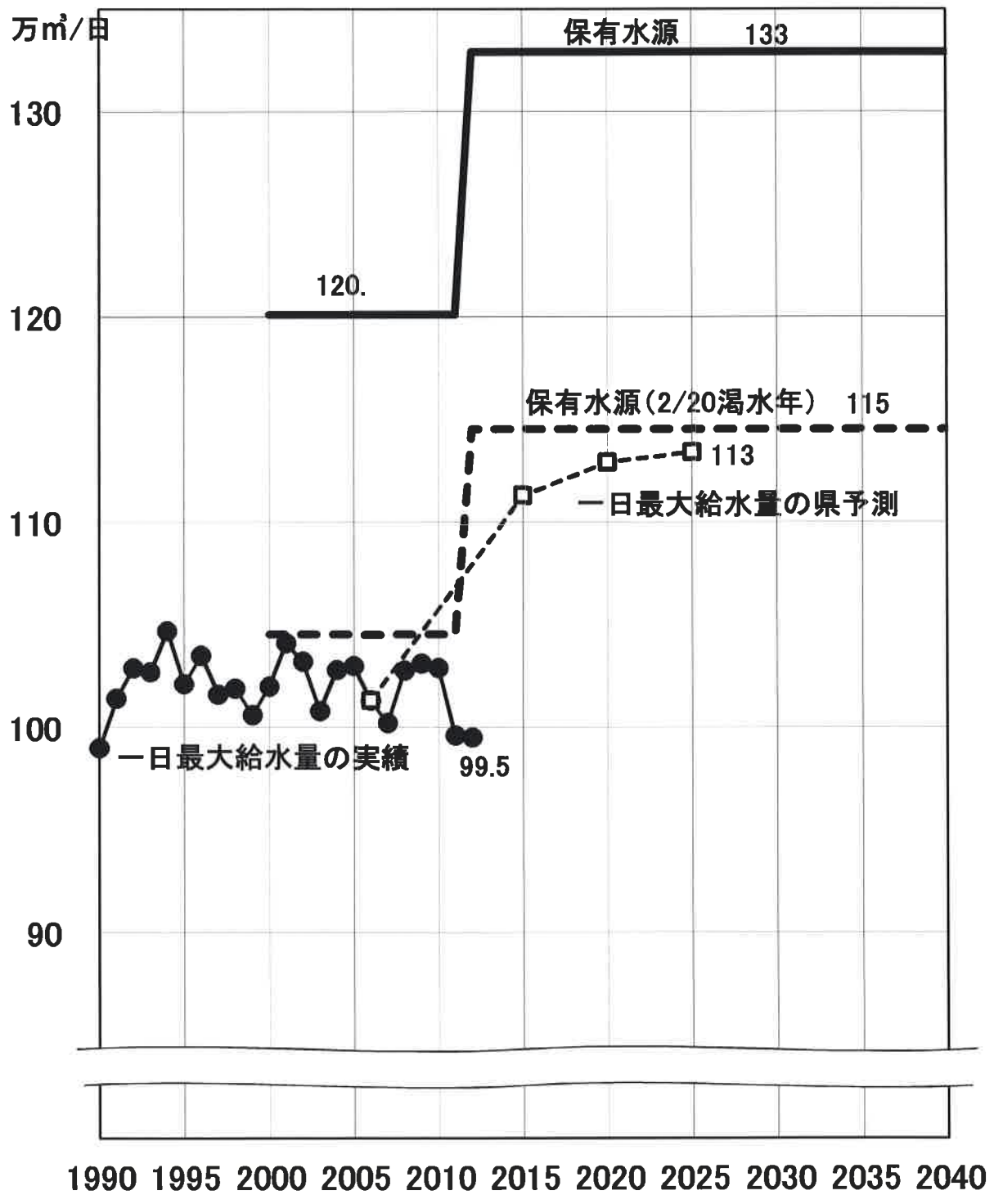
千葉県営水道の将来の水需給 (被控訴人の水需要予測と保有水源評価)



千葉県営水道の将来の水需給 (控訴人の水需要予測と被控訴人の保有水源評価)



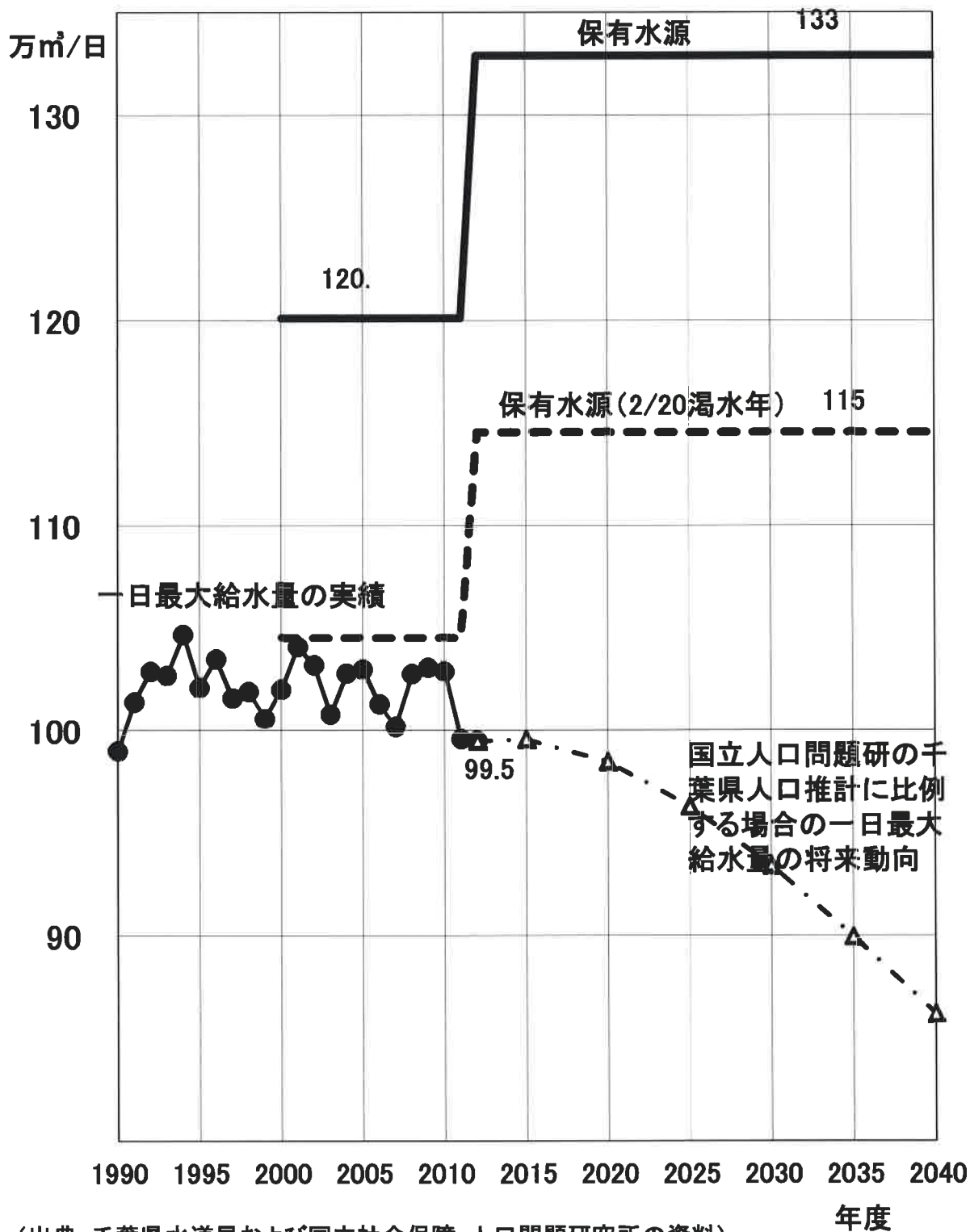
千葉県営水道の将来の水需給
(被控訴人の水需要予測と控訴人の保有水源評価)



(出典:千葉県水道局および国立社会保障・人口問題研究所の資料)

年度

千葉県営水道の将来の水需給
 (控訴人の水需要予測と保有水源評価)



(出典:千葉県水道局および国立社会保障・人口問題研究所の資料)

千葉関連四地区工業用水道の保有水源

	被控訴人の評価 (給水量ベース m ³ /日)				控訴人の評価 (給水量ベース m ³ /日)				2/20湯水年の評価率 (被控訴人による)
	現在の保有水源		ハツ場ダム完成後の保有水源		現在の保有水源		2/20湯水年の評価率		
	保有水源 (従来の評価)	2/20湯水年の評価量	保有水源 (従来の評価)	2/20湯水年の評価量	保有水源 (従来の評価)	2/20湯水年の評価量			
既得水源	利根川河口堰	51,400	51,400	51,400	51,400	54,190	54,190	100.0%	
	湯西川ダム	15,267	12,000	15,267	12,000	16,088	12,645	78.6%	
五井姉崎地区	印旛沼開発	401,760	315,783	401,760	315,783	423,360	332,761	78.6%	
	川治ダム	104,880	82,436	104,880	82,436	111,005	87,250	78.6%	
房総臨海地区	霞ヶ浦開発	67,920	67,920	67,920	67,920	71,887	71,887	100.0%	
	山倉ダム	120,000	120,000	120,000	120,000	127,008	127,008	100.0%	
五井市原地区	ハツ場ダム	—	—	37,700	29,632	—	—	78.6%	
	印旛沼高度利用 (暫定)	—	—	(16,874)	(13,263)	(17,781)	(13,976)	78.6%	
計	761,227	649,539	798,927	679,171	803,537	685,740	—		

[注]控訴人の評価による給水量ベースの保有水源は実績に基づく利用量率(98%)を用いたものである。(被控訴人は93%)

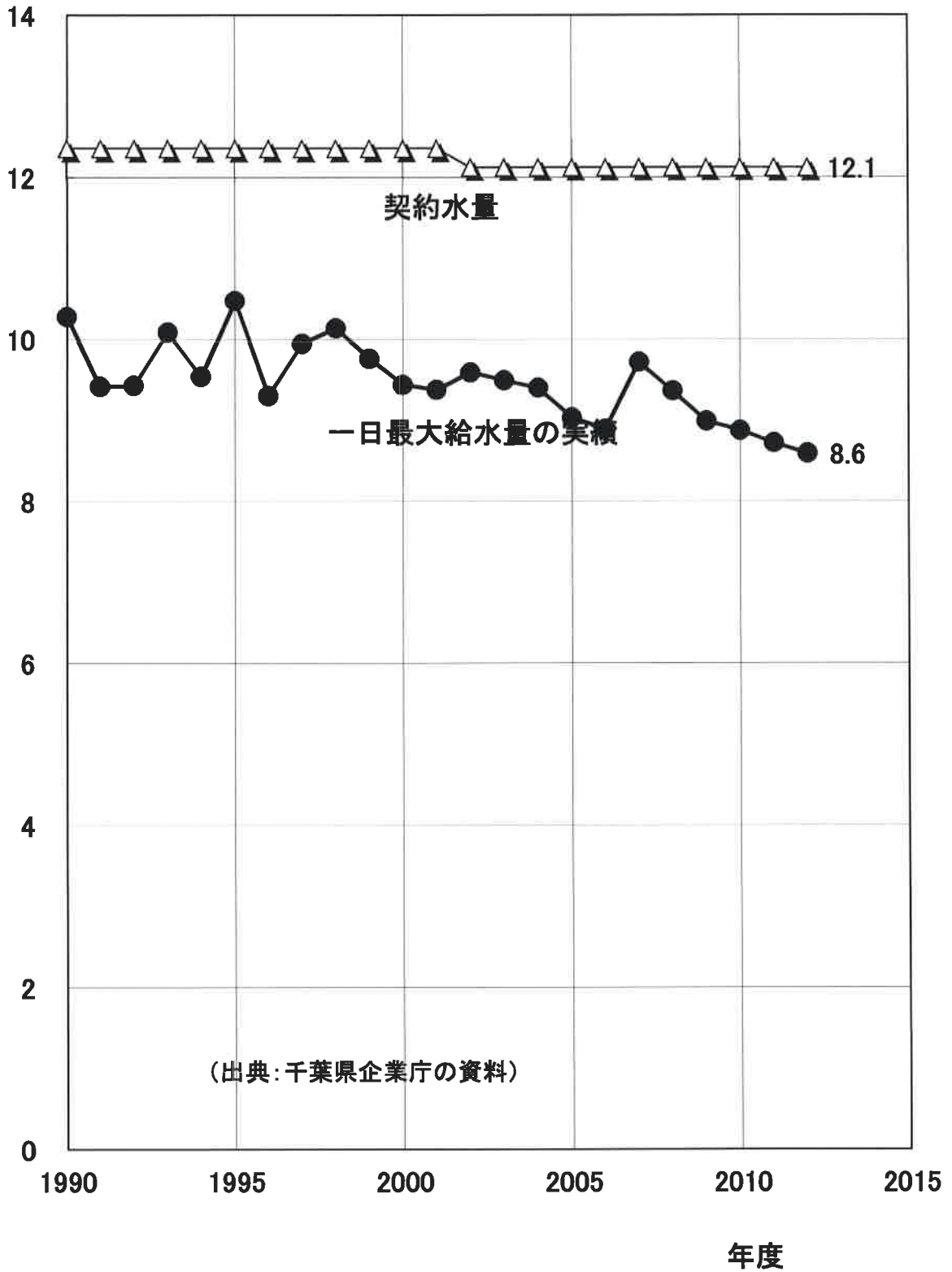
控訴人と被控訴人による千葉関連四地区工業用水道の現保水源の評価量の差

	控訴人の評価 (m ³ /日)	被控訴人の評価 (m ³ /日)	評価量の差 (m ³ /日)
千葉関連四地区工業用水道の現保水源 (従来の評価)	803,537	761,227	42,310

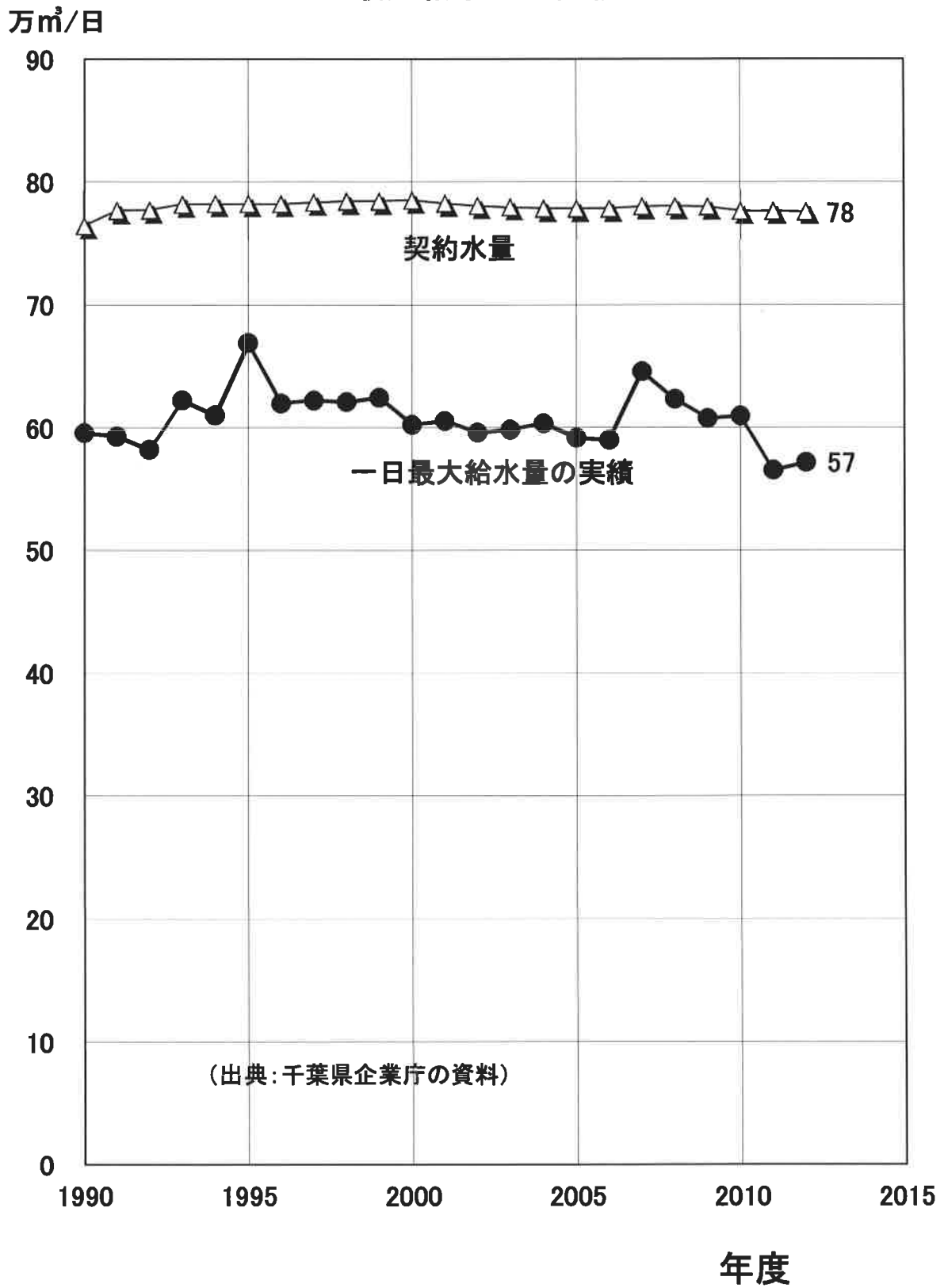
	控訴人	被控訴人	評価量の差 (m ³ /日)
利用率による評価差	実績値98%を使用	93%を使用	42,310
計	---	---	42,310

千葉地区工業用水道の 一日最大給水量の実績

万m³/日

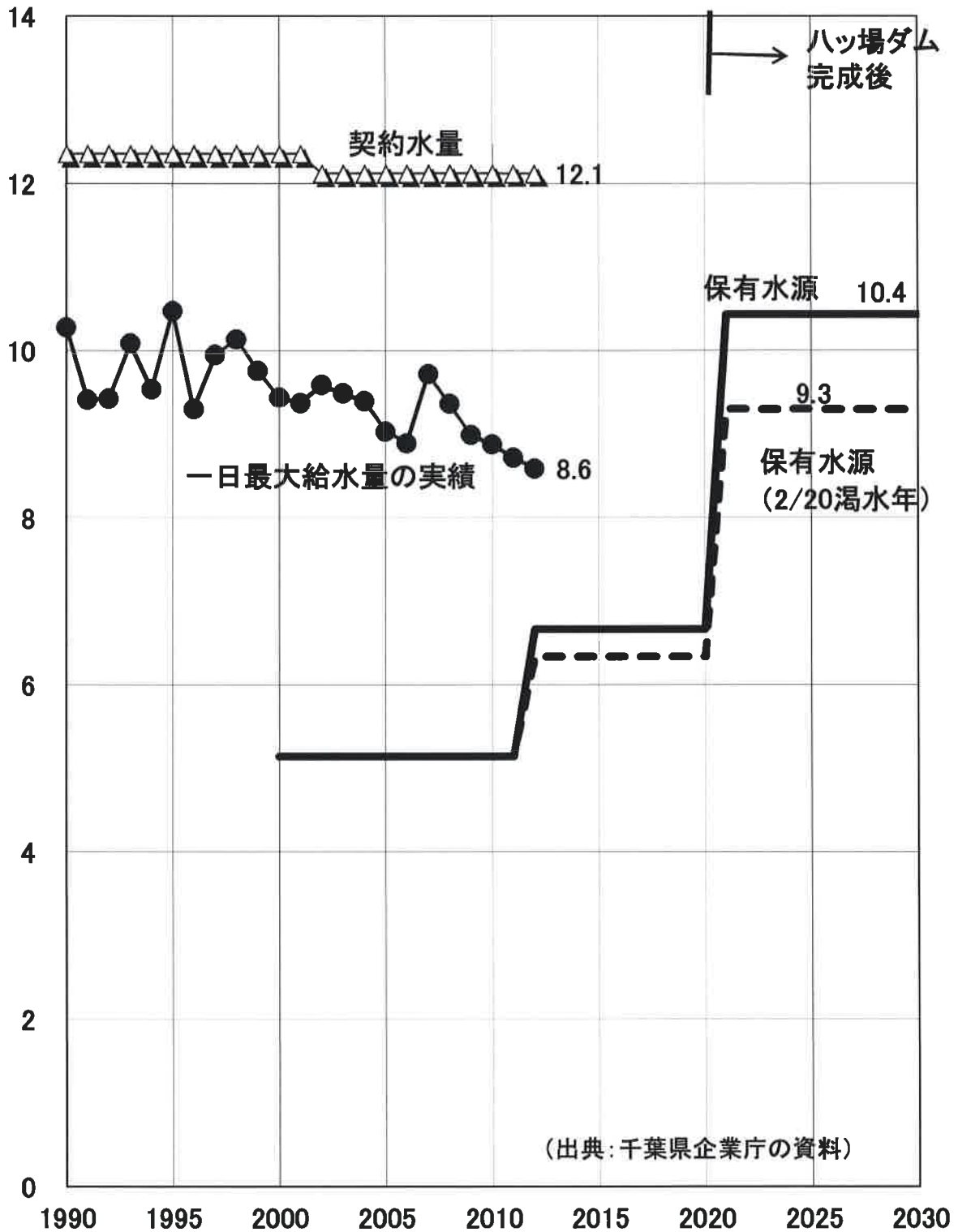


千葉関連四地区工業水道の
一日最大給水量の実績

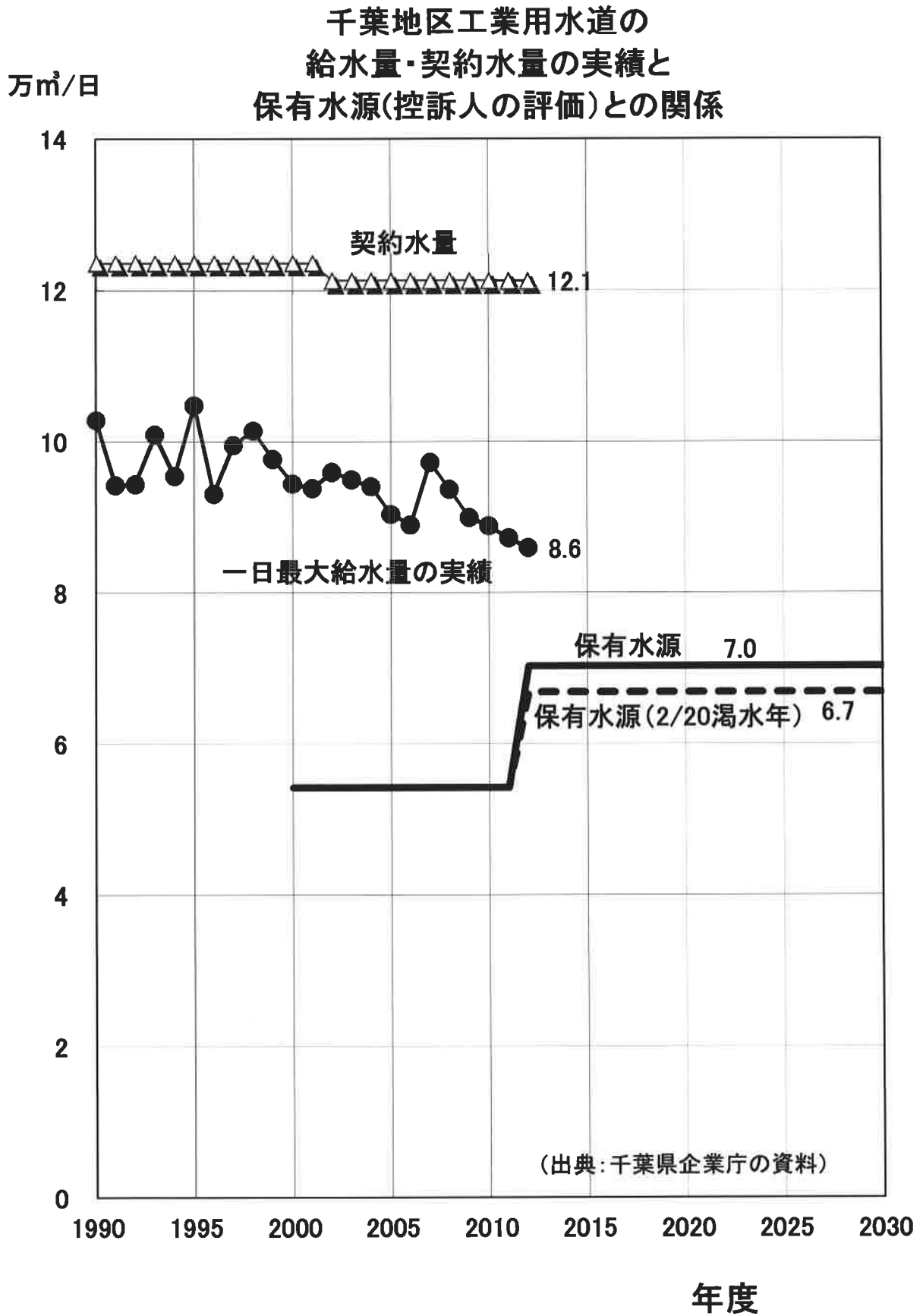


千葉地区工業用水道の 給水量・契約水量の実績と 保有水源(被控訴人の評価)との関係

万m³/日

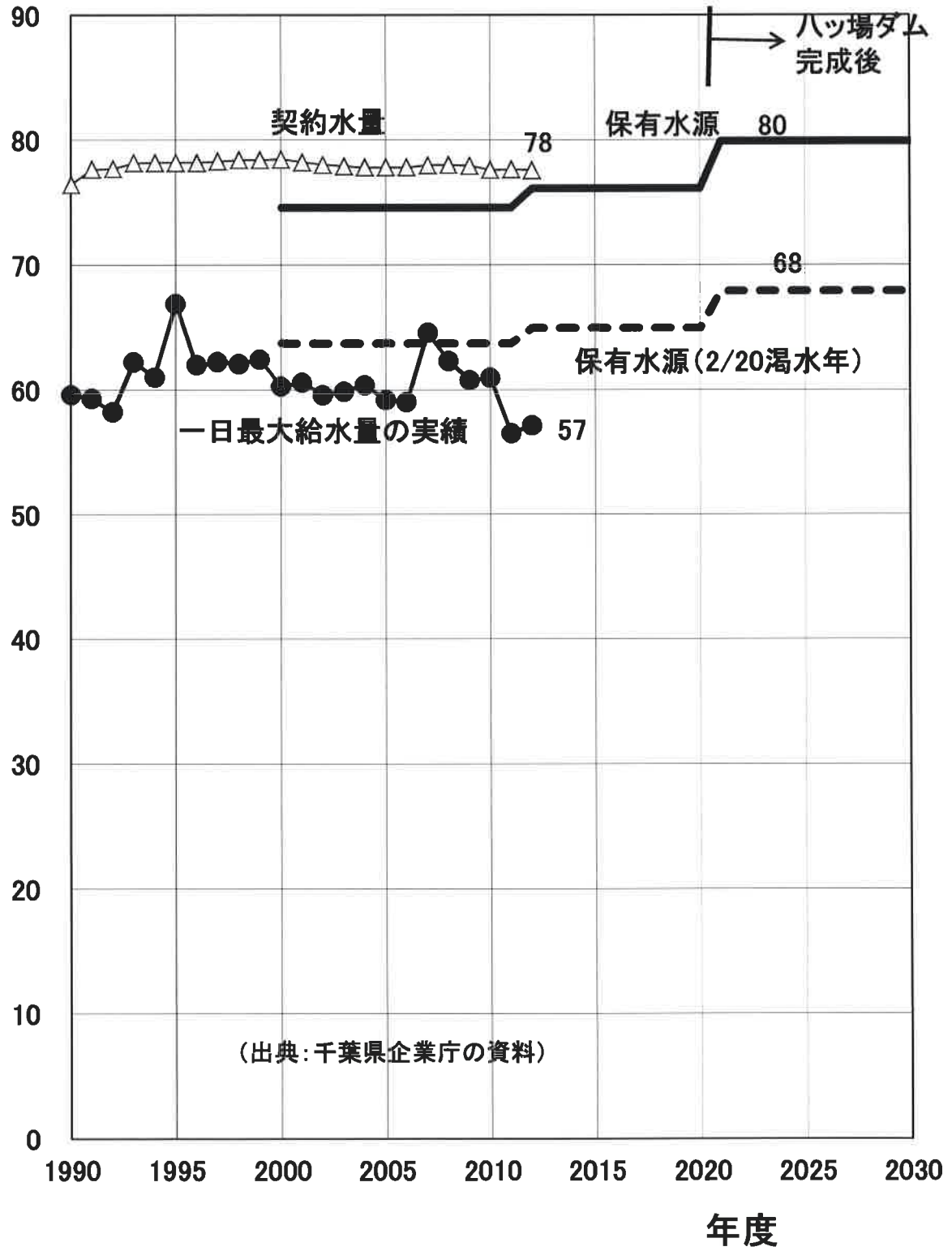


年度

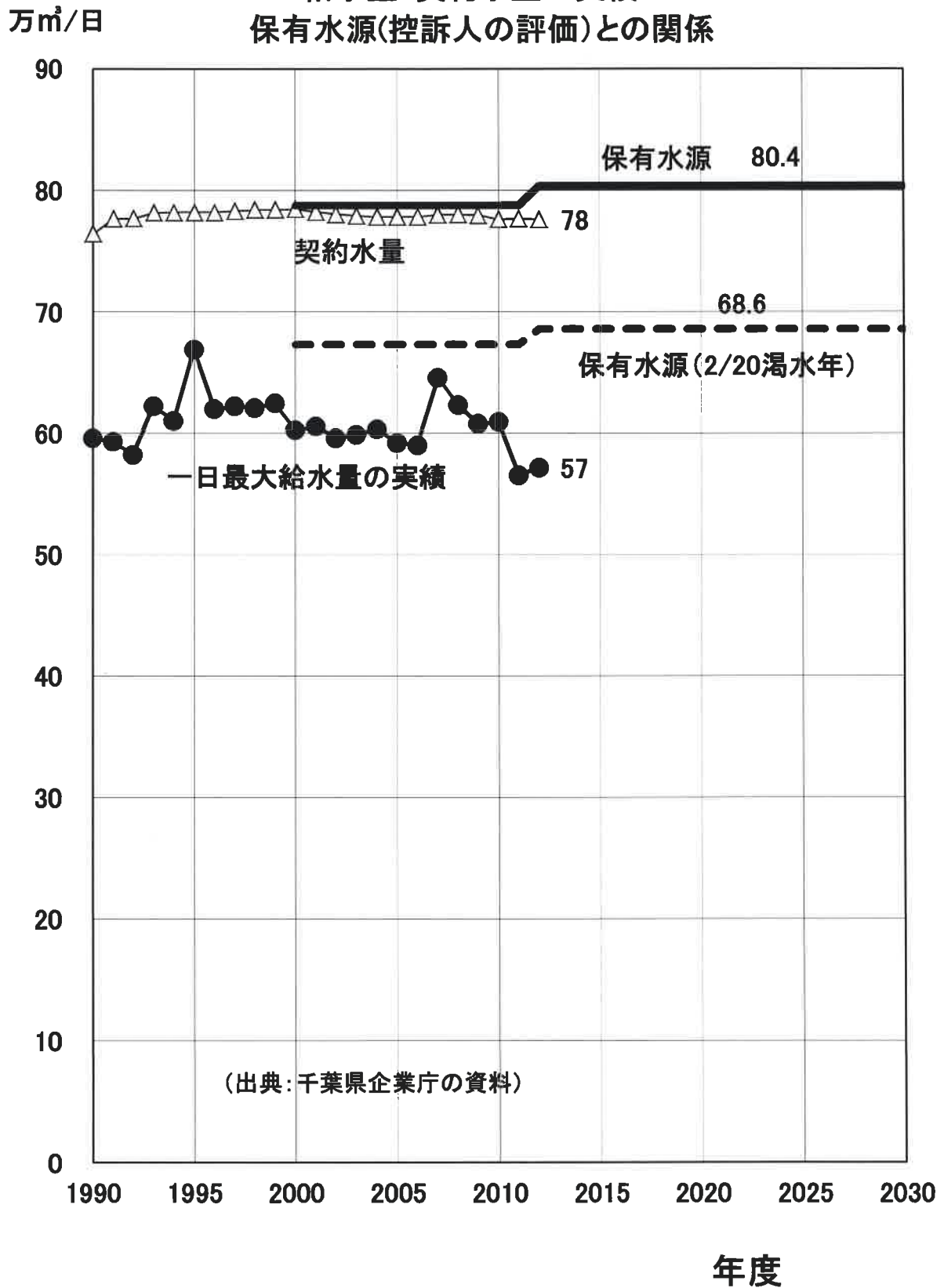


千葉関連四地区工業用水道の
給水量・契約水量の実績と
保有水源(被控訴人の評価)との関係

万³／日



千葉関連四地区工業用水道の
給水量・契約水量の実績と
保有水源(控訴人の評価)との関係



千葉4関連地区工業用水道の
利用量率の実績と被控訴人の使用値

